

12月初旬から、雪景色になる大地は、何年ぶりでしょうか。雪遊び、そり遊び、そしてクロカンを12月に楽しむ事が出来ることは、ここ数年なかったことです。子ども達は大喜び！！

春先に、裏山の開墾をした時から、この冬はこの斜面でそり遊びをしたら楽しいだろうな と思い描いていました。そして雪が降った朝。ピアノ教室から見た景色は感動的でした。それから、子ども達がそりを持ってこの斜面に横一列に並び、一斉にスタートした姿は、まさに絵本の世界でした。大地伝統の前のスロープは、確かにスピード感、スリル感は最高ですが、開放感と言う点では、裏山に劣ります。裏山は、皆が横になってもどこを滑っても余りあり、一体感を持って全員滑れます。そして、程よい傾斜なので、何度も何度も滑り降りることが出来ます。がらがらどんが演じられた一本丸太橋の土手。ここが、また最高にスリルある場所です。ここを滑り降りて、下の雑木林を滑って行くのも魅力的。雪がまだ少ないので、日替わりで、今日は裏山、翌日は前のスロープと、一週間毎日そり遊びを楽しみました。

加えて、クロカン。ここもサンクゼールへ抜けるひまわり道路の両隣の畑。ここを北信五岳や志賀高原を見ながら歩くのも最高だろうと思い描いていましたが、予想通り、年少児もバッチリ、年長児と一緒にバリバリ楽しむ事が出来ました。本当に、今年は、裏山のお陰で、魅力的な季節を楽しむ事が出来ています。素晴らしい冬の入りです。

と言えるのも、除雪が必要でないぐらい程よく降ってくれたからです。これらの子ども達の楽しそうな光景は、怪我とインフルエンザに見舞われた病床から見たもの！！ 除雪機にまだ足が付いていなかった青ちゃんとしては、何としても大雪にはなって欲しくなかった！！ 本当に恵みの雪でした。穏やかな助走のある冬の入りでした。感謝！！



## 【ドリトル先生】

「病気や怪我は、治すものではなく、学ぶもの」(あなげん) ゆっくり一ヶ月を児童書と共に過ごしました。

十干十二支で再び自分の干支に帰ることで、再び生まれ直すと言う意味で、還暦という言葉があるようです。数え年で61歳が還暦という意味で、まもなく迎える自分の還暦を考えてみました。生まれ帰って新しい自分のスタートという節目ですね。と言うことで、生まれ変わる前の最後のラストスパートを今年は楽しんでオーバーワークして節目を迎えたようです。新学期から、様々な行事に盛り上がり、夏は登山に自転車などで張り切り、2学期からは認定こども園でデスクワークから官庁等へバイクで走り回り、秋の登山、長男宅の改装工事、冬への準備、そして、おまけに週に一度のテニスなど、今考えれば、自分の年齢をわきまえずにいた自分でした。肉離れをした時も、隣で10代の子ども達が颯爽とコートを駆け巡り、それを60に近い自分が同じようなイメージで動いていた時に起こりました。

ふくらはぎがボキッと言った時、これは長引くぞと瞬間的に思いました。過去経験したことのない身体の悲鳴でしたから。今考えると、50代最後の転換点となるものだったような気がします。

実は、怪我をして松葉杖で横になった翌朝も、暇だったので長男宅へ行き、改装工事を行い、翌日も出かけて工事。足がパンパンに腫れても、驚異的に直して見せると欲張り、その後もリンゴの収穫、京都直売と出かけましたが、自分の予想外に治りが遅く、これはまずいと真剣に考えました。京都へ行く前に、寝たきりになりそうだからと、ののほな文庫へ潜り込み、児童書をどっさり借り、京都では、紅葉の京都を楽しむ事なく、ずっと本を読みふけていました。

大地へ戻ってからも、2階にある本棚から手当たり次第に読みふけりました。

「フランバースの屋敷の人々シリーズ」(バイトン)・「魔法使いのリョコレートケーキ」(マーヒー)・「幻のスパイス売り」(アリソンアトリー)・「秘密の花園」(バーネット)そして、今夢中になっている「ドリトル先生シリーズ」です。

今まで、何度もお話講座や東京子ども図書館講習会で「魔法使いのチョコレートケーキ」「街角のジム」「幻のスパイス売り」などをお話で聞いているのに、今回本を読んで、ようやくその素晴らしさ面白さを知りました。どうも、私は、耳で聞くよりも、読んで楽しむ事に向いているようです。と言うよりも、女性と男性の脳の構造だと妻と議論していますが、特に、マーガレットマーヒーの「メリーゴーランド」は、最高でした。妻に、ぜひこれを覚えてくれ とリクエストしたほどです。

ピアノ発表会のテーマであった「秘密の花園」久しぶりにもう一度読み直しました。インフルエンザ発症した時に読み始めていたので、布団の中で苦しい体勢で読み続けて、逆に疲れてしまい、妻から停止命令が出たほど、夢中になりました。(現在、妻が夢中になって読んでいます。) そして、現在の「ドリトル先生」ドリトル先生シリーズは、名作で、児童書の決定版であり誰もが夢中になると聞いており、文庫でもドンと構えているシリーズです。長男も小学校高学年で夢中になって読んでいた記憶があります。3年ほど前に読んでみようと思い、たぶん途中のシリーズからだったので、最初読んでみると、動物の話だったようで、これは駄目だと思い手放しました。

インフルエンザのお陰で、2階の児童書をほとんど読み納め、後はドリトル先生だけになりました。本棚には、岩波少年文庫の「ドリトル先生アフリカゆき」がありました。あとがきを読むと、何と石井桃子下訳とあり、これは面白いと直感して読み始めました。ドリトル先生シリーズは、やはりこれから読み始めることが絶対のような気がします。そして、アフリカゆきと航海記が、やはり一番面白いように感じます。まだ12冊中7冊目ですが。

ドリトル先生シリーズは、深いです！！ 「正直」「誠実」「真心」「嘘をつかない」「恨みや復讐心を持たない」「弱いものを愛する」「物言わない動植物などの心を感じとる」「弱者の気持ちや心に寄り添うこと」「大好きな事に夢中になる」「ユーモアと想像力と創造力と企画力と着眼点」「物やお金に執着しない」特に、あなげんに通じる「出すこと」「出し切ること」「お金を持つ事の不自由やお金は巡り巡ってくること」などなど。へたな人生指南書を読むよりは最高にいいです！！

長男は、小学生の時、どのような気持ちで読んだか、そして、子ども達がどんな気持ちで読んでいるか知りたくなくなりました。そして、これは、大人でも十分読み応えがあり、人間の原点として、生き様として、そして、一番大切なものは何かという問いかけに答えるものであると思います。

この時期に、ドリトル先生に出会えたことは、まさに運命的です。腰痛 肉離れ インフルエンザのお陰で、素晴らしい学びに出会えました。本当に感謝です。身体的にも精神的にも、生まれ帰る還暦。そんな意味で、50代を美しく精算して、新しい自分、時代に臨んでいきたいと思えます。精神的・身体的に、年齢を受け入れながら、情熱を持って、現在を日々を、ドリトル先生のように過ごしていきたいと思えます。